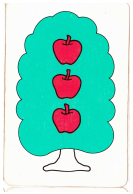
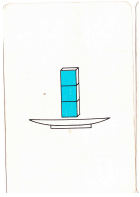
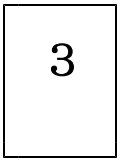
さんすう遊び題材解説　No. 13　**かずのトランプ**　　2014.02.14　矢沢国光



モノ　　タイル　　数詞（ことば）　数字

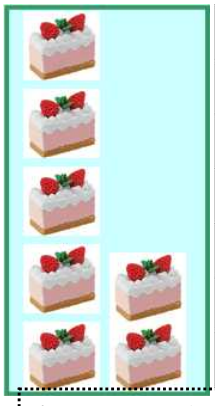
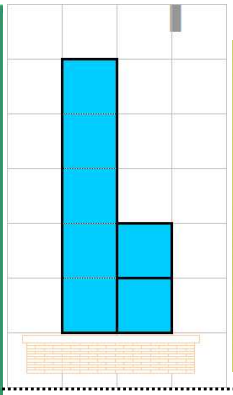
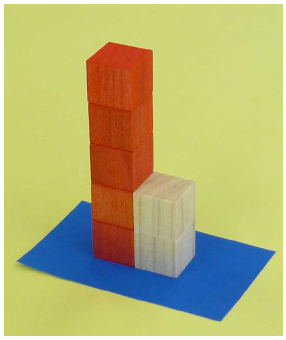
「かずのトランプ」は、０～９　の 10 個のかずに各４種類あり、合計　４× 10 ＝４０枚のカードから成り立ちます。［上の図はほるぷ社発行のもの。いまは売っていない。］

◇幼児向けの「かずのトランプ」

カードの前にキューブやモノ（消しゴム）を使ってゲームをします。

カードでトランプ遊びができるようになるのは、モノとタイルと数字と数詞の四つの対応ができあがってからです。でも、カードの代わりに実物のモノ（消しゴム）やキューブを使えば、もっと早くから、トランプゲームができます。

６～９のキューブは、５のキューブの横に、二列にして連結する（写真）。

ケーキ，タイル［左の２つはカード］　キューブ

キューブからカードに移行するときも、タイルは図のように５のタイルとバラのタイルを並べるように配置します。

消しゴムを箱に入れておきます。箱は、２×５の「数え箱」。それがないときは、牛乳パックの底を厚さ１５ミリくらいに切ったものを二つ、ガムテープでつないで作る。５個までは一つの箱に入れ、６～９個は二つの箱に分けて入れます（たとえば７個は５個と２個に分けて）。

モノからカードに移行するときも、図のように、５個とそれ以上の個数を２列に並べた図にします。

◇遊び方

（１）キューブでばば抜き

【準備するもの】

キューブを連結して作った１～９の「キューブ」４組（合計３６個）、手札のキューブを入れる小さな箱（人数分）、箱にかぶせる布、名札。大きな箱。

【遊び方】

1) キューブを、ぜんぶ、配ります。
2) 配られたキューブの中に同じ数のものがあれば「同じだ」と言って中央の大きな箱に出します。
3) 親を決め、親は自分の箱（キューブを入れた）に布をかぶせます。次の人が布の下に手を入れて１個キューブを取ります。手持ちのキューブの中に同じものがあれば「同じ」と言って出します。
4) これを続けて、早くなくなった人から勝ちです。

（２）キューブで５ならべ

トランプの「７ならべ」と同じです。７の代わりに５を最初に出します。キューブなのでマークによる区別はありません。

（３）キューブでかずあわせゲーム（花札型）　※「花札型の数あわせゲーム」は（４）をご覧下さい。

その１　キューブだけ使って

【準備するもの】１～９のキューブ４組。巾着袋、取ったキューブを入れる箱(人数分)

【遊び方】カードの場合とルールは同じです。「積み札」は、巾着袋に入れておいて、「めくる」代わりに、手を袋に突っ込んで取ります。

その２　キューブとモノ（消しゴム）を使って

【準備するもの】１～９のキューブ２組、１個～９個のモノ（皿にのせた)、巾着袋、

【遊び方】 モノ（皿）は、手札と場札にだけ使う（足りない分はキューブを使う)。そのほかは、 カードの場合と同じルール。

（４）カードだけで５ならべ、ばばぬき

ふつうのトランプ遊びの「７ならべ」「ばばぬき」と同じものです。０～９の４種類のカード、計４０枚を使います（ばばぬきのときはジョーカーを１枚追加)。

（５）カードでかずあわせゲーム（花札型）

【準備するもの】かずのトランプ、紙皿（人数分)、名札

【遊び方】 ４０枚すべて使う場合について、説明します。[ぜんぶ使わずに、たとえば１～７の２８枚だけでもできます]

1) トランプの配り方　(人数)×２×(　　)＋(　　)＝４０

手札　　場札

となるように、(　　）の中の数を決めます。 たとえば４人でゲームするときは、

（４人)×２×(手札一人４枚)＋(場札８枚)＝４０枚。 つまり、一人４枚ずつ配り（**手札**)、場に８枚表を出しておき（**場札**)、残りは裏を上にして、**積み札**とします。手札は、手に持ちますが、初めのうちは、机の上に見えるようにならべてもかまいません。

2) 親から順に回る。自分の順番になったら「(場札のところに）**１枚捨てて、１枚（積み札を）めくる**」

3) 捨てたカードと同じカードが場にあれば、「取る」(捨てたカードと場にあったカードの２枚を取る)。得点です。「得点箱」を用意して、得点のカードを入れます。手札と紛れないように注意！

4) 得点があってもなくても、積み札を**１枚めくる**。

5) めくったカードと同じカードが場にあれば、「取る」(めくったカードと場にあったカードの２枚を取る)。これで（得点があってもなくても)、次の人に順番が移ります。

つまり、**順番が来たら「１枚捨てて１枚めくる」。めくるのは、１回だけです。**

6) 最後の人が１枚捨てて１枚めくると、場札がすべてなくなるはずです。だれかの手札が残ったり、場札が残ったりするときは、どこかでまちがえていますが、気にせずに終了して、次に進みます。

7) 取った札の多い・少ないをくらべて勝敗を決めます。やり方は、色形ゲームのときと同じように、名札のとなりに取ったカードをすきまなく並べて、長さでくらべます。

【保育士の感想】キューブでの５並べは、やり方を説明しただけではわからない子もいました。間違えたときは、ひとつひとつ考えたり、わかる子が教えてくれていました。わからない子も友達に教えてもらうことでわかることができていました。

順番を守らず、持っているキューブを出す子もいましたが、やっていく中で順番を守ること――ルールを守ること――を学んでほしいと思います。